



栗原小だより

新座市栗原 1-5-1 ☎042-473-7070

HP <https://e-kurihara-c-niiza.edumap.jp/>



令和7年度 9月号

令和7年9月 1日

歴史は繰り返すのか、繰り返さないのか

校長 古澤 健史

【気持ち揃うと進むカッター】

最高気温が、35℃を超えないと「今日は涼しいな」と思うってしまう、猛暑日が当たり前になってしまう今年の夏でした。

7月25日・26日に5年生が、林間学校を実施しました。新座市よりはるかに涼しい榛名湖も昼間は暑く感じたそうです。それでも朝晩は高原らしく涼しく、気候の違いを肌で感じる事ができたことと思います。榛名高原学校での集団生活やカッター実習を体験し、5年生は成長しました。2学期以降の活躍にとっても期待しています。



【一生懸命な大人は格好いい】

今年も町会主催の夏まつりが各町会で行われました。その中でも、8月2日に本校を会場に行われた栗原一丁目町会の夏まつりは、一際にぎやかでたくさんの笑顔が溢れていました。校庭の中央に櫓が組み、お店やキッチンカーが所狭しと集結、体育館では、素敵な音楽ステージが開催されました。子どもたちはとても楽しそうでしたが、一番輝いていたのは、まつりをつくりあげた大人たちだったと私は思います。栗原は格好いい大人がいっぱいです。

10月4日(土)の栗原町会防災訓練でも力を貸してください。

【戦後80年に思うこと】

さて、今年のアジア・太平洋戦争終結から80年の節目の年でした。

私はこの時期になると、祖父母のことを思い出します。母方の祖父母は、長崎の人です。祖母は、昭和20年8月9日に原爆が投下された時に、長崎にいました。祖父

は少し離れたところにいましたが、長崎に新型爆弾が落とされ、壊滅したという連絡を受け、長崎に昼夜走って駆けつけ被爆しました。2人とも原爆によってすぐに命を奪われず、生き残ることができました。

もう一人の祖父は、昭和20年8月15日を熊谷の飛行場で迎えました。特攻隊員でしたが、出撃前に終戦となり、生き残ったのです。祖父は生前、こんなことを言っていました。「じいちゃんは、操縦がうまかったわけじゃない。人よりちょっと思い切りがよかったから、後輩たちに操縦を教えることになった。それで出撃が後になった。戦争なんてするものじゃない。食べ物もなくてひどいものだった。敵の飛行機が攻めてくると、急いでエンジンを回して飛行機に乗り込んで飛ばすのさ。敵の攻撃から日本を守るためじゃない。飛行機を守るために山奥の方に逃がすのさ。日本には、パイロットに練習させるための飛行機も、最後にはそれを動かすガソリンさえも残ってなかった。」

今年の夏は、各社どの新聞にも戦争中に苦難を経験した人たちの話が、特集記事として連日掲載されていました。テレビでは、恒例となったスタジオジブリの『火垂るの墓』だけでなく、『はだしのゲン』も放映されていました。戦争や戦争被害、その記憶をどう後世に語り継いでいくか、戦争を止める分岐点はなかったのか、特集番組も多く流れていました。

「歴史は繰り返す」という古代ローマの歴史家クルティウス＝ルーフスの言葉や「歴史は繰り返さないが韻を踏む」という『トムソーヤの冒険』を書いたアメリカの作家マーク・トウェインの言葉があり、現在の状況が戦前の状況と似ていると警鐘を鳴らす人もいます。タモリさんの「新しい戦前」という言葉が、後世名言だったと言われることのないように今、何ができるだろうか。